

令和五年度 3学期 学校再開の挨拶

私は2学期の終業式で皆さんに

『一年の計は元旦にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり。』

(一年の計画は元旦に立てましょう、そしてその積み重ねの一生はまじめに働くかどうかで決まり、一家の将来は健康で過ごすことができます、という意味です。)

皆さんも、12月31日の大晦日までに今年一年を振り返り、1月1日の朝、新年の目標・計画を立てましょう。3学期始業式に、皆さんと笑顔で会えることを楽しみにしています。」と述べました。

しかし、1月1日の午後4時10分、能登半島を震度7の大地震が襲いました。私は七尾の自宅でくつろいでいたのですが、これまで経験したことのない、強い揺れが2度襲い、急いで外へ避難し、津波の恐れがあることから、高台に避難し、避難所で一晩を過ごしました。七尾以北の奥能登では、この何倍もの大きな揺れを感じたことでしょう。珠洲の津波、輪島朝市通りの全焼、そして穴水町内でも家屋の倒壊、土砂崩れによって大きな被害を受けました。自宅が住めない状態になった生徒もいます。しかし、そんな中でも、本校の生徒とその家族、教職員が全員無事であったことに、心から安堵しています。

1月9日の始業式の予定から2週間が経ちました。由比ヶ丘の校舎は、損壊が激しく、穴水役場から校舎へ向かう道路は車が1台やっと通れる危険な状態です。そして皆さんが毎日通っていた登校坂は、大きくひび割れ復旧の目途は立っていません。今日は48名の生徒(1年生23名、2年生22名、3年生3名)が集まってくれましたが、今も町内外の避難所生活を送っている生徒も数多くいます。

今日から、穴水町の全面協力をいただき、穴水中学校の3階をお借りして学校を再開します。登校できない生徒にはできる限りリモートで、授業等を配信していきます。

**穴高生と穴中生  
穴水の大切な輝く星たち  
学ぶことの楽しさを  
この校舎で分かち合おう  
穴水中**

日常を取り戻すには時間がかかり、今後も苦しい状況は続くと思いますが、苦しい今こそ「チーム穴高」で生徒の皆さんと教職員が一丸となって前に進んで行きましょう。